教科等や分野名：生活科

対話を通して深い学びを実現する生活科の指導の工夫

新潟市立五十嵐小学校
加賀　聖人（２８年度）

これまでの私の生活科の授業では，児童一人一人の気付きがばらばらなまま終わってしまい，個々の気付きを関連付けることができず，気付きの質が高まらなかった。担任した１年生の学級でも，自分のアサガオの成長には気付いているものの，友達にお世話の仕方を聞いたり，友達の観察カードを見たりする児童は少なく，他者との交流が活発にならなかった。そこで，気付きの質が高まる「深い学びのある生活科」への転換が必要だと考えた。

小学校学習指導要領解説生活編では，生活科においては気付きの質の高まりが深い学びであると捉えることができるとされ，無自覚だった気付きが自覚されること，個別の気付きが関連付けられること，対象のみならず自分自身についての気付きが生まれることが，気付きの質が高まることと示されている。体験を友達や対象，自分自身との対話で見つめ直し，対話を活性化させることで，気付きの質が高まるのではないかと考えた。

そこで，主題「**対話を通して深い学びを実現する生活科の指導の工夫**」を設定し，本実践に取り組んだ。

友達との対話を活性化させる手だて（対話のスキル）を単元を通して行えば，児童の気付きの質が高まり，深い学びが実現するのではないかと考えた。

本単元は，１年「あきとともだち」（全４次）である。その中で，対話のスキルの手だてにより気付きの質が高まった場面を，第２次・第３次を中心に報告する。

成果として，対話のスキルが定着したことで，教師が促さなくても児童が自発的に友達から学ぼうとする姿が見られた。課題として，対話がより促されるよう，スキルの提示の仕方や種類，２年生につながる系統性について今後検討したい。